

有明浜の海浜植物 とアサギマダラ

だより 8号

有明浜の海浜植物とアサギマダラ飛翔会発行

■有明浜の清掃活動

2022年11月12日

9番ゲート付近を清掃しました。海ゴミとマイクロプラスチック等の回収です。

有明浜の清掃を行うビーチクリーナーの通った跡が見えます。この延長線上には天然記念物のスナビキソウが自生していてビーチクリーナーで、スナビキソウを根こそぎ持っていきます。われわれとしてはスナビキソウを、保護するために竹を立てて目印としていましたが、美観を損ねるという理由から観音寺市に取り除かれました。砂浜に打ち上げられた海ゴミを、ビーチクリーナーが通過するあたりまでガンジキを使って寄せます。

快晴で少し汗ばむくらいのさわやかなお天気でした。左下は集めた海ゴミです。ここへ寄せておくとビーチクリーナーが拾ってくれます。

新しくメンバーに参加してくれました親子です。お子さんたちが活躍すると我々大人も頑張っ
てゴミ収集をしなくてはなりません。



マイクロプラスチック等の収集は、SDGs 達成にむけた取り組みのひとつです。マイクロプラスチック等は海に残り、魚たちが食しその魚を人間が食べてしまうのです。14番目 海の豊かさを守ろうというのが海ゴミ・マイクロプラスチック等の回収になります。SDGsについては4ページを参照してください。

2022年12月10日

さわやかな風日和の午前中でした。清掃場所は7番ゲートから6番ゲート付近です。ゴミはもちろん、マイクロプラスチック等も拾い集めます。先月と同様に有明浜に漂着したゴミをガンジキで集めます。右下の砂浜が盛り上がった所は海亀の産卵跡かもしれないそうです。



2023年1月21日

土曜日の午前9時から、先週雨天で順延の有明浜8番ゲート付近の清掃を13名で行いました。1月の後半に寒波が来て風が吹き荒れました。そのためマイクロプラスチック等が砂浜に散らばりました。その拾い集めです。

また、ビーチクリーナーを作動させて、スナビキソウを根こそぎ持っていかれるため竹矢来を立てて「これ以上入るな」の意思表示をしました。香川県では絶滅危惧Ⅰ類に指定されているスナビキソウは、私たちの手で保護育成しなければなりません。



2023年2月11日

有明浜の9番ゲート付近の清掃を行いました。風で飛ばされたペットボトルやビニールなどがたくさん散乱していました。16名の参加者です。



砂浜を一目見ただけで、ビニールやゴミが目につきます。本日はたくさんのゴミを収集できました。



■ 飛翔会のあゆみ

現在の「有明浜の海浜植物とアサギマダラ飛翔会」は、平成13年(2001年)4月に「有明浜の海浜植物を観察する会」として会員数27名で設立しました。

平成26年(2014年)5月21日に愛媛県佐田岬植物愛好会メンバーと有明浜の海浜植物を観察する会が、ウンランを一緒に見学するなど交流を深めました。有明浜でのスナビキソウを見ていると偶然、アサギマダラの飛来があり、愛媛県佐田岬植物愛好会が騒ぎ出しました。有明浜の海浜植物を観察する会メンバーたちはアサギマダラの存在をここで初めて知ることになりました。県下唯一の自生地と言われている、海浜植物スナビキソウの蜜を求めて立ち寄る生態を教わりました。



その後、平成 27 年(2015 年)6 月に有志メンバー11 名で「有明浜のアサギマダラ飛翔会」を設立し、海浜植物の保護育成とアサギマダラを呼ぶ活動を始めました。

そして、令和 2 年(2020 年)4 月に「有明浜の海浜植物とアサギマダラ飛翔会」を再結成、現在も活動を継続しています。

■SDGs との関わり

持続可能な開発目標 (SDGs : Sustainable Development Goals) とは 2015 年 9 月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」に記載された、2030 年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標を言います。17 の開発目標を示します。

有明浜の海浜植物とアサギマダラ飛翔会は、持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。



上記 17 の開発目標のうち、有明浜の海浜植物とアサギマダラ飛翔会は下記に当てはまります。169 のターゲットでは 2030 年までに達成すべき具体的な目標が細かく示されています。

14 番目の



海の豊かさを守ろう ターゲットは 14.1

持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する。

有明浜の清掃

2025 年までに、海洋ごみや富栄養化を含む、特に陸上活動による汚染など、あらゆる種類の海洋汚染を防止し、大幅に削減する。

15 番目の



陸の豊かさを守ろう ターゲットは 15.5

陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する。

海浜植物の保護育成
アサギマダラを呼ぶ活動

自然生息地の劣化を抑制し、生物多様性の損失を阻止し、2020 年までに絶滅危惧種を保護し、また絶滅防止するための緊急かつ意味のある対策を講じる。

■ 第4回 香川のアサギマダラ写真展

日時：2023年1月30日～2月4日 午前9時～午後4時

場所：観音寺共同福祉施設展示ホール

インターネットの写真応募総数 50 枚含め 100 作品が展示されました。

今回の写真展は目玉として幼虫コーナーを設けました。ハガミ山 木之郷フジバカマ園では昨夏、アサギマダラが産卵するようにと鬼女蘭の苗 5 株を植え育ててきました。1 本は育ちませんでしたが残りの 4 本に産卵があり、幼虫が孵化しました。それらの成長過程を写真で見せ、説明書きを加えました。孵化直後の幼虫写真や、トレンチング行動と言った専門的な写真もありました。写真解説は手作り感満載です。



次に幼虫の顔コーナーです。1 齢から 4 齢までの顔アップを展示しました。見たことのない写真なので皆さん、興味深々でした。11 ページには別の幼虫顔写真や観察記録があります。



伊吹島の篠原先生が大学生の制作したアサギマダラアートを提供してくれました。アサギマダラアートというのはロシアのウクライナ侵攻が始まり、アサギマダラが幾多の困難を乗り越え、子孫を残すため毎年北上と南下を繰り返す姿と、世界平和を願う思いが重なり「アサギマダラアート」が始まりました。

アサギマダラのマーキングの方法で書いてくれました。中国学園大学の学生 15 名と東京都市大学人間科学科 7 名の学生による展示でした。

講演会

日時：2023年2月4日 午後1時～

場所：観音寺共同福祉施設運動室

発表者 太田一歌ちゃん

テーマ：ちょうのおはなし

発表者 泉宮幸司さん（川上裕子さん代読）

テーマ：フジバカマ園 春夏秋冬

太田一歌ちゃん発表内容

町を飛んでいる蝶たちにも不思議がいっぱいです。蝶をもっと知るために、勉強したことを紹介します。発表の順番は、自己紹介、標本の作り方、迷蝶についてです。

自己紹介をします。

『私は、蝶が大好きです。幼稚園に行っていたころ、イモムシを拾いました。そうしたら、種類が気になって図鑑を買ってもらいました。調べていたら、好きになっていました。小学生になって、捕まえた蝶の標本を作るようになりました。近くに詳しい人がいないので、博物館の先生やSNSを通して詳しい方に教えてもらっています。』

標本の作り方

最初に道具の説明で展翅板、展翅テープ、昆虫針、まち針、ピンセットなどを使います。まず、標本にする蝶を捕まえます。捕まえた蝶を、傷付けないように三角紙に入れます。写真で手に持っている蝶はクロアゲハで、大きくて三角紙に入りませんでした。

蝶を持つ時は翅を持たないようにします。これは鱗粉を取らないようにするためです。鱗粉とは、蝶の翅についている粉のことです。

次に、冷凍します。冷凍することで蝶が乾燥しないように良い状態で保管できます。標本が乾燥すると、硬くなり形を整えることが難しくなります。冷凍庫から出した蝶の展翅をしていきます。蝶を展翅板に固定し、針でとめていきます。



クロアゲハ



三角紙



忘れないようにデータラベルも作ります。データラベルには種類、捕まえた日時、場所を書きまします。これで1か月乾燥させます。

乾燥が終わったら展翅板から外します。保管の時に大事なこと、データラベルを必ず付けることです。標本箱に入れたらこれで完成です。

迷蝶について

迷蝶は迷った蝶です、台風などで飛ばされて来た蝶のことです。この蝶はハガミ山 木之郷フジバカマ園で、太田晴夫さんが去年の10月21日にみつけた蝶です。図鑑を見たらメスアカムラサキに見えました。詳しい人に聞くとメスアカムラサキとリュウキュウムラサキの2つの可能性が出ました。裏の模様を見ないとわからないそうです。



標本と写真を比べて、特徴を観察するとリュウキュウムラサキであるという答えが出ました。なぜ同じかと言うと、裏の模様がそっくりだからです。皆さんはいかがでしょうか？似ているように見えますか？

この蝶は、気流に乗りやすく移住性が大きいとのこと。リュウキュウムラサキは、日本では沖縄などの南西諸島に生息しています。南の島から観音寺市にも、来ることを知って私はこんなに遠くまで来るのかと、すごくびっくりしました。私は見るができなかつたので、お金をためて南西諸島に行って観察したいです。

泉宮幸司さん発表内容

太田晴夫さんは、ハガミ山 木之郷フジバカマ園のお世話をしてくれています。1年間密着取材をして来たことをまとめて発表します。春にはオーナー様によるフジバカマ苗の植え付けがありました。



5月6月には白絹病対策の消毒作業を行いました。特に夏場の水やり・草削り・通路確保は大変でした。



秋にはオーナー様の集いを行いました。これが集合写真(8ページ)です。秋の開花にアサギマダラを迎えます。子供達にはマーキングを体験してもらいました。2022年の写真ですが、これで1年間の作業 春・夏・秋・冬が完了します。

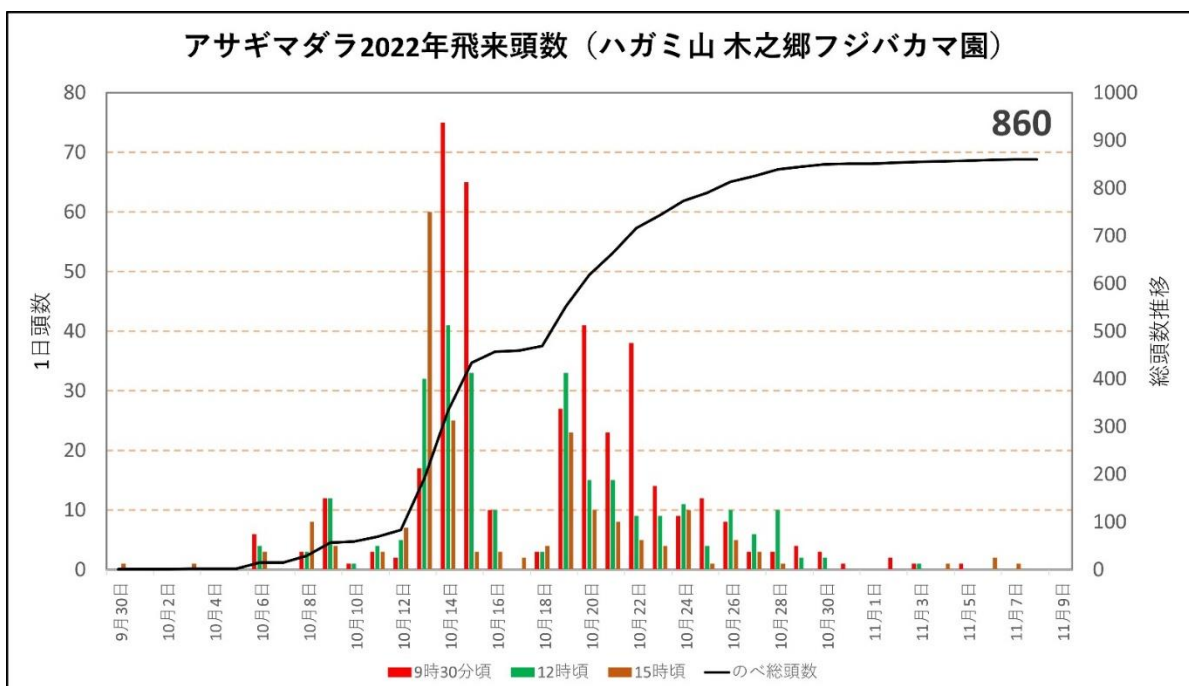


秋	10月15日オーナー様の集い	冬	2月～3月の作業（2022年）
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>受付とテント</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>マーキング体験</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>放蝶の瞬間 切り花</p> </div> </div>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>畝立て・消石灰</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>堆肥・耕起完了</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>もみ殻・立札</p> </div> </div>		

■ 2022 年秋のアサギマダラ飛来数

アサギマダラが南下するため、伊吹島への飛来はやや遅れています。ハガミ山 木之郷フジバカマ園に寄ってから伊吹島にたどり着いた結果と思われます。

場所	伊吹島	ハガミ山 木之郷フジバカマ園
訪花	フジバカマ類	
初飛来日	10月9日	9月30日
最終飛来日	10月31日	11月7日
総頭数	58	860



【考察】

全国的に飛来数が減っているとの報告があったが、ハガミ山 木之郷フジバカマ園では2021年が1637頭、2022年が860頭とまあまあの数字を残した。

9月30日に初飛来を1頭、小西さんが確認した。10月初旬の平均気温は29℃で飛来は見られなかったが、気温が下降してから姿が見え始めた。

第1ピークは2021年より早く、10月12日から開始となった。アサギマダラは22℃から26℃が活発に活動できる温度。飛来適温時期に雨（10月17日）が降り気温が低下、南へ旅立つ態勢になり22℃から26℃を維持するも数は下降していった。第2ピークは10月19日から10月24日頃であった。

そして、ピークは雨を境に頭数が変化することがわかった。10月31日が雨で一気に頭数が減った。順調に頭数が下降しているため、蝶の南下が始まったと考えられる。

フジバカマの満開時期は10月20日頃に終わりかけた。今年のフジバカマは生育が例年になく順調で、背丈は1mを超え株は横に大きく育ったと聞く。



2022年9月の気温変化を調べると、平均が30℃で10月に向けて順調に下降していた。初飛来の確認が9月30日だから、結果として2021年に比べて早かった。

一方2021年9月の気温変化は平均気温に変動が少なく、平均が28.6℃であった。そのためか初飛来は遅れて10月6日に1頭であった。前年の9月気温を比較するのも考察にいい結果をもたらせた。



■アサギマダラ幼虫の観察記録

2022年の7月に鬼女蘭の苗を植えたところ、10月にアサギマダラが多数産卵しました。幼虫が孵り成長を続けています。幼虫は生まれた時には灰色です。しばらくすると斑模様が出現します。その斑模様がいつ出現するかわからなかったため10個体の観察を継続したところ、3日から5日めで出現を確認しました。

卵から幼虫が生まれる直前には卵の頂部が黒く見えます。生まれてすぐの幼虫は自分の卵の殻を食べます。殻は豊富な栄養源になります。

幼虫はトレンチングと言って体をコンパスのようにして葉を円形にかじります。このような面倒な食痕ができるのは、ガガイモ科植物が持つアルカロイド系の防御物質の通り道を噛み傷によって遮断し、食べるべき場所を隔離してから食べ始めるためです

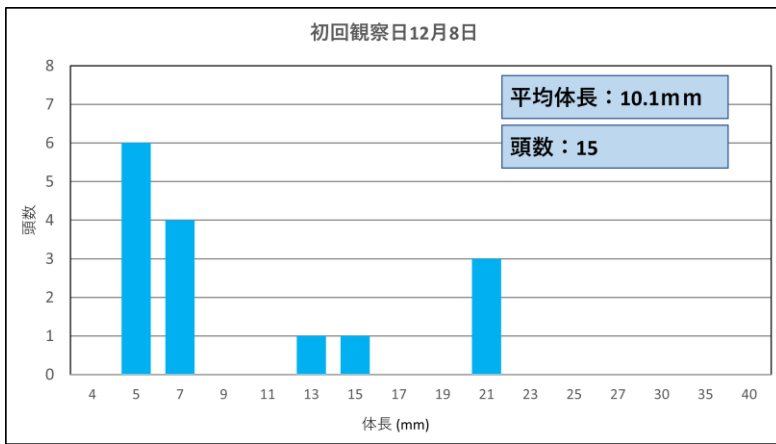
【引用：国立研究開発法人 森林総合研究所 [https://www. ffpri. affrc. go. jp/snap/2009/5-asagimadara. html](https://www.ffpri.affrc.go.jp/snap/2009/5-asagimadara.html)】



香川県内で幼虫は本当に冬越しできるのかどうかの観察を続けています。過去の文献では四国のデータが見当たりません。脱皮の回数で1齢・2齢と呼び、関西地方では1～3齢が冬越し可能だと文献にありました。4齢でも冬越しができるのか12月から翌年の春には蛹になり、無事に羽化してくれることを見守り続けます。

観察を始めた12月8日からの幼虫の大きさの記録を示します。観察当初は15頭いました。その後1月22日には13頭に減り、1月下旬に寒波襲来があり氷点下が3日連続でありました。31日に確認したところ無事に13頭の全数が生存していましたが2月20日には12頭、3月1日には11頭に減りました。

日付	体長 (mm)														
	4	5	7	9	11	13	15	17	19	21	23	25	27	30	35
12月8日		6	4			1	1			3					
12月26日		7	2			1	1	2	2						
1月3日		8					1	1	3						
1月12日	1	5	3				1	1	4						
1月22日		3	2	2	1				2	2			1		
2月12日	1		4	2	1				1	2	1		1		
2月20日			1	3	1	2			1	1		1	1	1	
3月1日					3	1	2				1	1	1	1	1



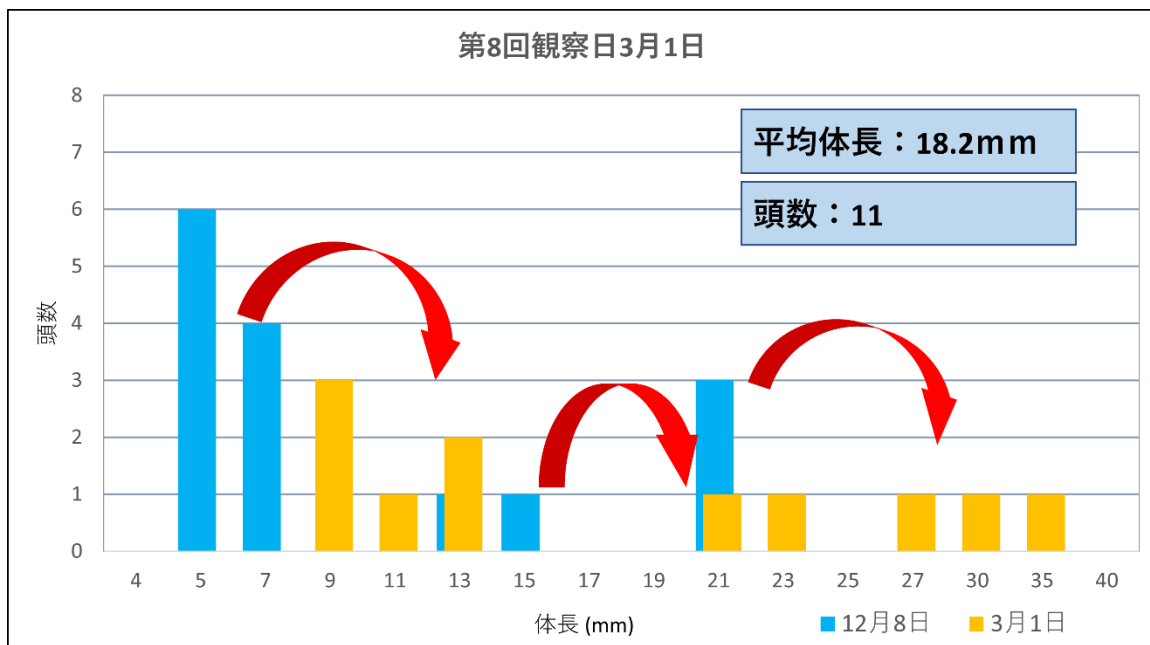
初回 12 月 8 日の観察では 11 月中旬～下旬にかけて孵化した幼虫の 1 齢、2 齢がたくさんいました。頭数は 15 頭です。平均体長 10.1mm でした。体長が 21mm を超える幼虫が 3 頭いました。一番早い 10 月下旬に孵化したものです。

顔は黒地に薄水色の模様があり、まるで仮面ライダーです。頭部にはツノが 2 本、お尻にも 2 本のツノがあります。

幼虫の体は黄色と黒の組紐模様で、天敵に対し「私は危険色です」の意思表示です。



初回観察日の 12 月 8 日と第 8 回観察日 3 月 1 日の幼虫大きさ比較です。1 齢・2 齢・3 齢幼虫が、4 齢・5 齢となり大きく成長しています。30mm を超える 5 齢幼虫がいます、今後は蛹になり春にはアサギマダラの羽化が始まるかと思えます。



■有明浜の海浜植物シリーズ【第1回】

有明浜の海浜植物を順次、紹介していこうと思います。第1回はウンランです。ウンランはゴマノハグサ科で香川県内では、有明浜だけに自生が確認されています。茎の先に数個の黄白花を咲かせる、小さな多年草です。大きさを見るためにペットボトルを置いて撮影したものは、飛翔会の古川好美さんより頂いた写真です。和名は海蘭、花期は8月下旬から10月初旬です。



【お知らせ】

会員みなさまへ

当会はみなさまの会費で運営ができています。必ず年会費 1,200 円は納めるようお願いいたします。遠方の方は 140 円切手 8 枚を郵送してくれてもかまいません。

有明浜の海浜植物とアサギマダラ飛翔会 会長 杉村勝司

連絡先 090-1173-8014

住所

768-0012

観音寺市植田町 761 番地

有明浜の海浜植物とアサギマダラ飛翔会ホームページ
ariakehama.org

